

先週の説教要旨

『天からのパン』井上隆晶牧師
出エジプト 16 : 15~22, ヨハネ 6 : 48~56

- ①【天からのパンであるマンナ】イスラエルの民は、荒野に入るとモーセに向かって食べ物について不平を言いました。神様は彼らの不平を聞き、夕方にはうずらを与え、朝には天からパンを与えてイスラエルの民を満腹にさせました。朝、宿営の周りに露が降り、それが蒸発すると、薄くて壊れやすいものが残っていました。それは白く、密の入ったウエファースのような味がしました。民はそれをマンナと名付けました。モーセは民に「あなたがたはそれぞれ必要な分、つまり、一人当たり一オメルを集めよ。」(出エジプト 16 : 16) と命じました。一オメルは2.3リットルです。ある者は多く集め、ある者は少なく集めましたが、升で量ると、多く集めた者も余ることなく、少なく集めた者も足りないことなく、それぞれが必要な分を集めました。モーセが「誰もそれを翌朝まで残しておいてはならない」(出エジプト 16 : 19) と命じましたが、残しておく者もいました。しかし虫がついて臭くなりそれは食べられませんでした。日が高くなるとそれは溶けてしまったので、民は朝ごとにマンナを集めなければなりません。六日目は、いつもの二倍を集めることができ、次の朝まで残しておいても虫がつかず、臭くなりませんでした。七日目は安息日だったので、野にはマンナは降らなかったからです。神様は安息日に礼拝を守る者には、二日分のパンを与え、必ず食べていけるようにして下さる、ということなのです。安息日に労働しても何も得ることはできないということを教えているのです。
- ②【イエス様こそ天からのパンであること】群衆にイエス様は「朽ちる食べ物の

ためではなく、いつまでもなくならないで、永遠の命に至る食べ物のために働きなさい」(ヨハネ 6 : 27) と言われます。この永遠の命に至る食べ物というのがイエス様ご本人の事なのです。群衆は、先祖が荒野でマンナを食べたように、私たちにも天からのパンを降らせてください、といひます。するとイエス様は、「私は天から降ってきたパンである」(6 : 41) と言ひ、「私は命のパンである。あなたがたの先祖は荒野でマンナを食べたが、死んでしまった。しかしこれは天から降ってきたパンであり、これを食べる者は死なない。」(6 : 48~50) と言われて、この私を食べるように言われます。さらにもっとはっきりと「人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない。…私の肉はまことの食べ物、私の血はまことの飲み物だからである。」(6 : 53~55) と言われました。これは聖餐式のキリストの聖体、聖血を象徴しています。聖餐を通して私たちはキリストを食べるのです。旧約時代に天から降ってきたマンナは実は、イエス・キリストのひな型であったことが分かるのです。

②【信仰も天からの命も一日しかもたない】そうすると、マンナに起こった特徴も、同じようにイエス様に当てはまるのではないのでしょうか。《第一に》、マンナはそれぞれが必要な分を集めたといひます。神の言葉は、多く読んでも、少なくとも読めなくても、その人にとって必要な言葉が必ず与えられるということです。よく説教の後に「今日の説教は、私に対して言われているようだった。今の私にぴったりだった」という声を聞くことがあります。求める人には必ず神様は必要な言葉を下さるということです。《第二に》、毎日、神の言葉を聞くこと。それも午前中に聞かなければならないということです。マンナは昼までに溶けてしまいました。午前中ということは、

週報

日本キリスト教団 都島教会

伝道所設立 1957年12月1日 教会設立 2001年12月2日
〒534-0012 大阪市都島区御幸町 2-6-17

TEL06-6922-1120 FAX06-6922-1120

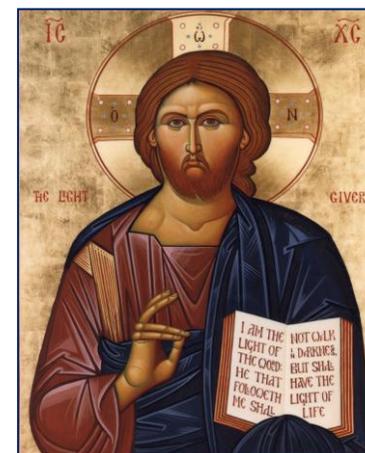
Eメールアドレス : miyakoch@eagle.ocn.ne.jp

ホームページアドレス : <https://miyako.jima-church1.com>

郵便振替 00920-4-1442 日本基督教団都島伝道所

主任牧師 井上隆晶

2025年9月14日 No.1837



《世の光であるキリスト》

都島教会の2025年度の宣教方針

標語 《会堂建築の準備をしよう》

聖句 「主御自身が建ててくださるのでなければ、家を建てる人の労苦はむなし。」(詩編 127 : 1)

2025年度の目標

- 1 毎週礼拝を守り、礼拝出席平均 28 名を目指します。
- 2 一年間に一人を礼拝にお誘いします。
- 3 信徒の交わりを大切にします。
- 4 会堂建築のための具体的な準備を進めます。